

1. 背景

我が国においては人口減少・少子高齢化が加速的に進行しており、出生数が統計開始以来初めて 80 万人を割り込み、合計特殊出生率が過去最低に並んだ。本県においても、希望出生率(1.87)から大きく乖離する 1.40 にまで合計特殊出生率が落ち込み、危機的な状況となっている。このため、2023 年 6 月 9 日に発出した「人口減少危機突破宣言」下における取り組みの一つとして、県職員が抱える「結婚」「出産」「子育て」に係る課題を解決するため、当事者である職員自らが支援策を考案する若手専門部会が立ち上がった。

2. 目的

県職員の出会いや結婚を推進する施策を立案し、提言する。

3. 提案概要

県職員の ①結婚に向けた意識付け と ②巡り会いの機会の提供 を行う。

(1)根拠

令和 5 年 6 月 30 日～7 月 10 日に実施した県職員アンケート調査を基に分析した結果、次のことがわかった。詳細については p.3 参照。

【結婚】20 代～30 代前半では 70%以上が結婚を希望している。一方で、年齢を重ねるとともに希望者が減少しており、特に女性の希望者数減少が顕著である。結婚していない理由としては、男女ともに「適当な相手と巡り合わない」との回答が最多であった。

【恋人】恋人がいると回答した職員の割合は男女ともに約 30%であった。一方で、恋人を希望する職員の割合は男性が約 75%、女性が約 55%となった。以上から、現在恋人はいないが、恋人がほしいと思っている職員の割合は、男性が全体の約 53%、女性が全体の約 37%であることがわかる。恋人ができない理由のトップは男女ともに「出会いの場所がない」であった。

(2)ターゲット設定

職員アンケート調査の「結婚に対する希望の有無」の項において、「すぐにでも(2～3年以内)結婚したい」「いずれ結婚したい」と回答した層をターゲットに据える。ターゲットのペルソナは次のとおり。

【結婚】職員アンケート調査の分析により、結婚よりも自由・気楽さ・趣味娯楽を重要視していること、結婚をまだ遠いものだと感じている姿が浮き彫りになった。

【恋人】一方で、結婚に向けて行動を起こしているが、結婚に至る相手に巡り合わない現状も明らかになった。

また、結婚の希望を有する者が若年層に多いことから、若い世代にターゲットを絞って、同世代での出会いの場を創出する。

(3)アプローチ

施策立案に当たって、まず既存事業や他自治体の事例を洗い出し、整理を行った。主な事例は次のとおり。

- ・山梨県職員互助会婚活事業(いちご狩り等)
- ・やまなし出会いサポートセンター事業(マッチング事業等)
- ・愛知県:愛・地球博記念公園(ジブリパーク)における大規模婚活
- ・鳥取県:ボランティア仲人を介した紹介、島根県と連携したマッチングシステム運営
- ・群馬県:新婚カップルに「ぐんま結婚応援パスポート」(協賛企業による特典あり)を交付
- ・長野県:若者向けライフデザイン形成支援
- ・北杜市:メタバース空間での婚活イベント
- ・愛知県豊橋市:ボランティアの「婚活サポーター」制度

(4)施策の方向性

上記根拠に基づき、課題設定を行い、上記で設定したターゲットを対象とした施策として、次の2つの方向性に沿った3事業を提案する。

①結婚に向けた意識付け: 結婚を自分ごと!

「気持ちが悪く結婚に向いていない」という現状を打破するため、「結婚はまだ先のこと」と考えている層に、結婚を自分ごととして考えてもらう必要がある。

このため、若いうちからライフデザイン形成を行い、結婚に対する意識付けを強化する。

(→提案 A ライフデザイン形成研修)

②巡り会いの機会の提供: 「婚活」感を控えめに、人間関係拡大!

結婚に向けて行動を起こしているが、結婚相手を見つけることができていない層に対して、巡り会いの機会を提供する必要がある。一方で、「婚活」を目的としたものであることを前面に押し出すと、気後れするなどの精神的障壁が生じる。

このため、「適当な相手」とのマッチングの前段階として、共通の趣味を持つ者どうしでのコミュニティが形成されるようにするため、職員が気軽に立ち寄れるプラットフォームを創出する。

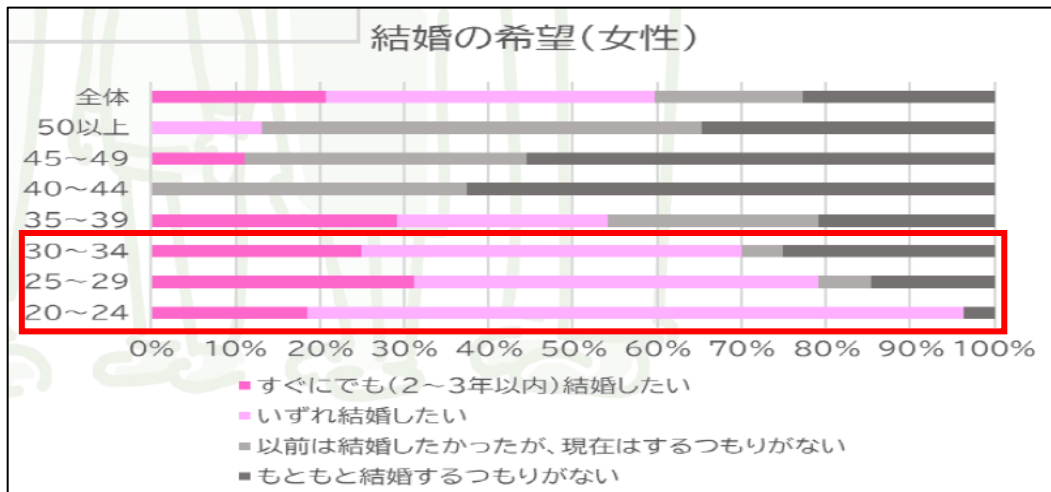
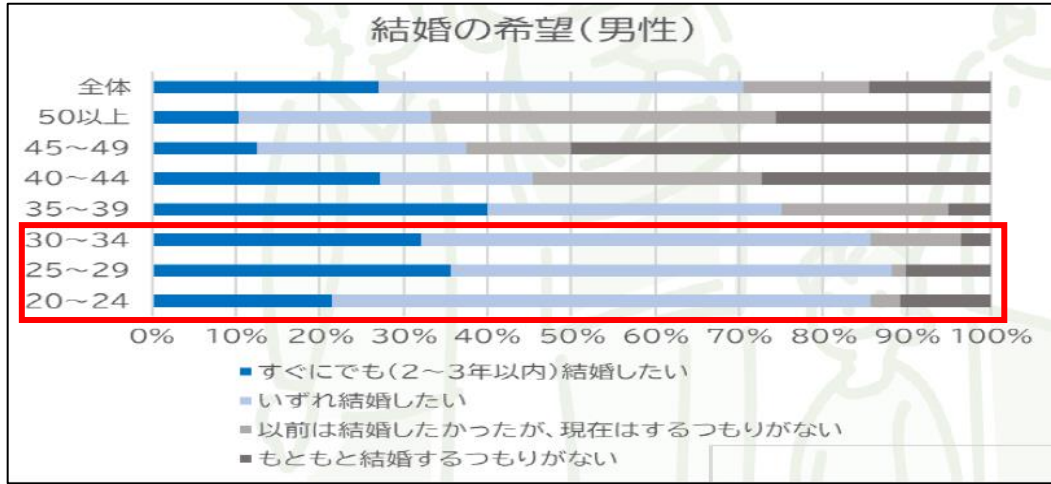
(→提案 B ふらっと よれる プラットフォーム(FYP))

また、若い世代に重点を置いて、日々の悩みを相談する座談会を開催し、年齢の近い職員どうしの出会いの場を創出する。

(→提案 C 若手職員座談会)

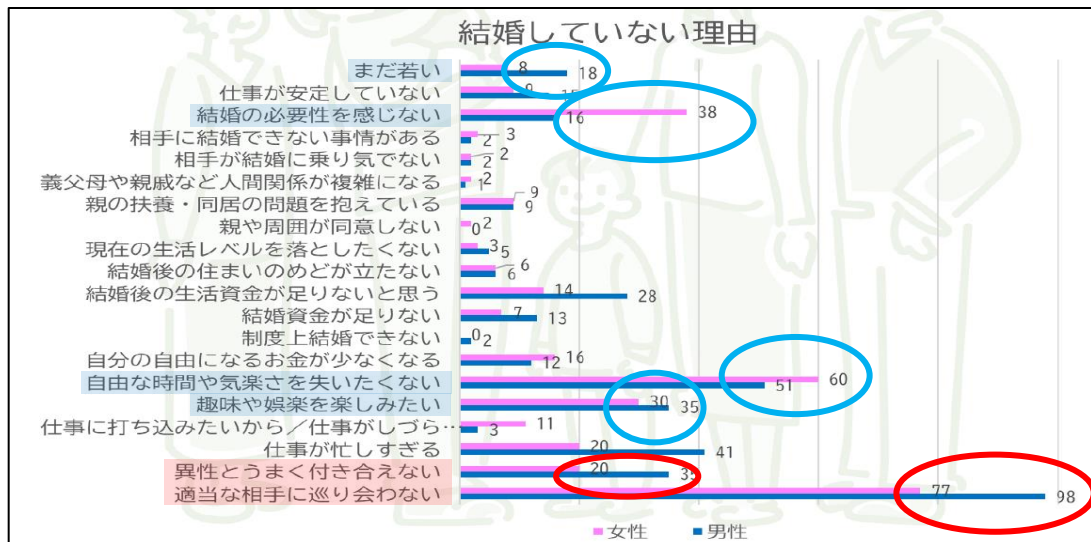
1. 結婚に対する希望の有無

34歳までの職員については、男女ともに70%以上が結婚を希望している。



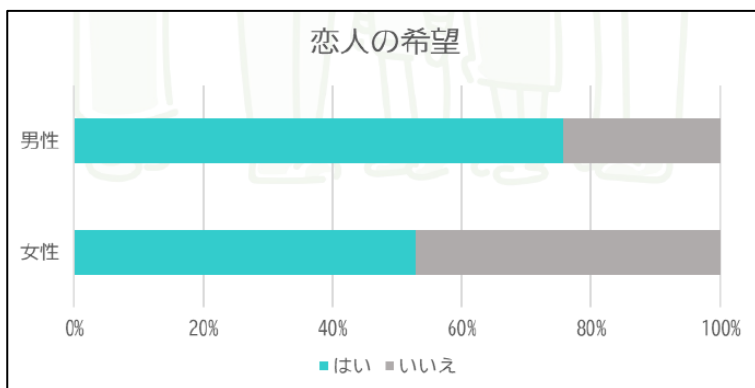
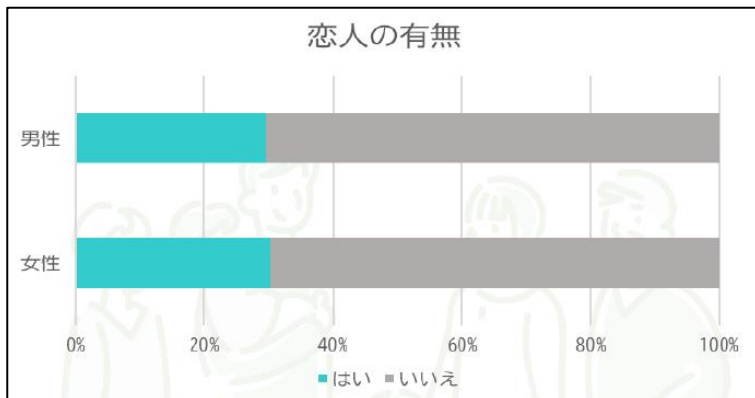
2. 結婚していない理由

本人の気持ちの問題 巡り会いの機会の問題 が主な原因となっている。



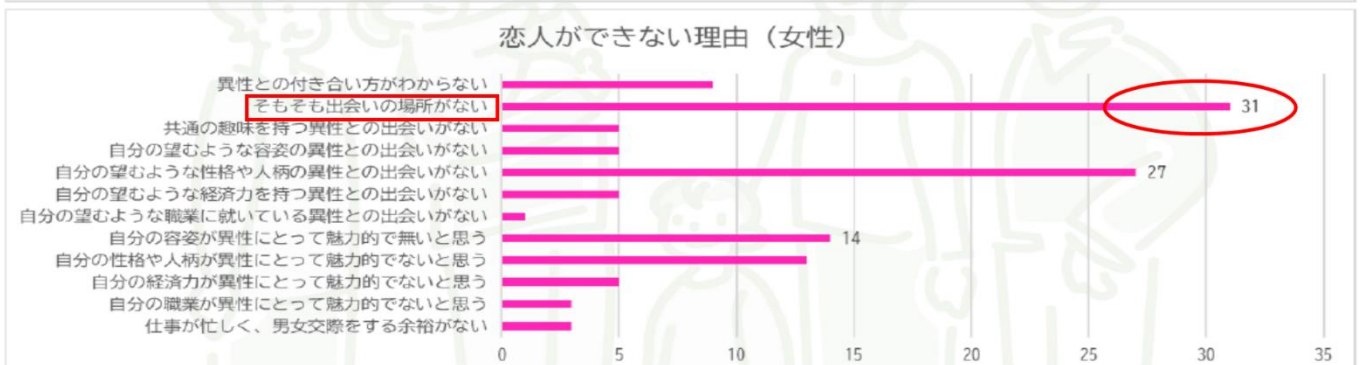
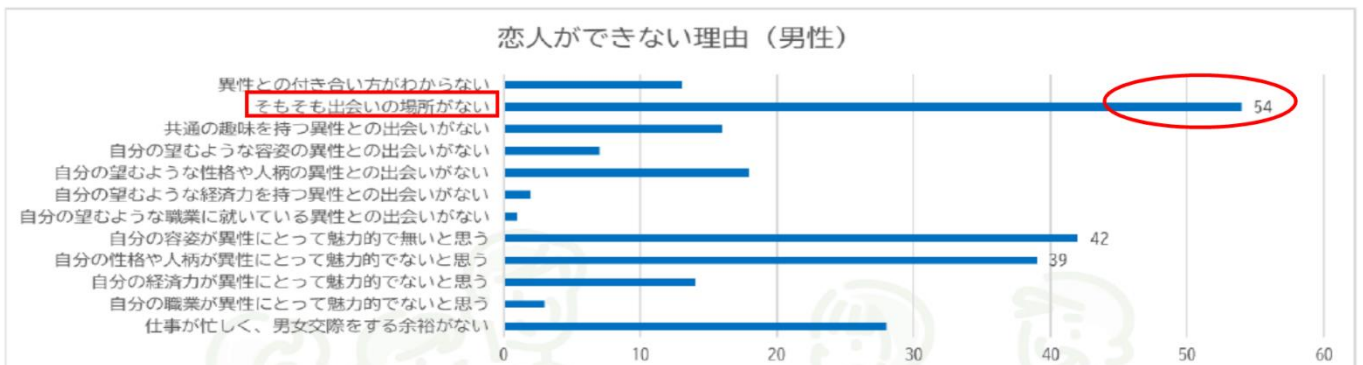
3. 恋人の有無・希望

結婚していない職員を対象に聞いたところ、恋人がいると回答した職員は男女とも約3割おり、恋人を希望する職員は男性約75%、女性約55%であった。



4. 恋人の有無・希望

結婚していない、かつ恋人を希望する職員を対象に聞いたところ、「そもそも出会いの場所がない」と回答した職員が男女ともに多かった。



提案A

「ライフデザイン形成研修」実施要領

1. ねらい

我が国では人口減少・少子高齢化が加速的に進行しており、本県においても、合計特殊出生率の希望出生率との乖離と2年連続の下降により、まさに危機的な状況となっています。

山梨県庁においても、未婚の職員のうち恋人がいると回答した割合は30%にとどまるとともに、34歳までの職員の7割が結婚願望を持っている一方で、年齢が上昇するにつれて結婚を希望する職員数が減少していくことがわかりました。

結婚していない理由としては、「自由や時間や気楽さを失いたくない」「結婚の必要性を感じない」など、気持ちが結婚に向いていないことが挙げられます。

本研修では、計画的に結婚に向き合うきっかけを作ることを目的として、何歳で結婚し、子どもの成人を何歳で迎えるか、自らの人生のビジョンを描き、ライフデザインを形成します。

2. 日程

令和7年●月●日(金) 15:00～17:00

終了後、意見交換会

3. 場所

山梨県庁 (甲府市丸の内一丁目6番1号)

4. 研修内容(例)

時間	項目
15:00	・ライフデザインの定義・目的理解 ・ライフデザインの手法
15:55	～休憩～
16:05	・個人ワーク (ライフデザイン形成体験)
	・フィードバック
17:00	・まとめ

5. 講師(候補)

法人会連合会 (やまなし出会いサポートセンター運営) ●●氏

ニッセイ基礎研究所 天野馨南子氏 など

6. 対象者・募集人員

受講を希望する未婚の職員で所属長が推薦する者 ●名程度

7. その他

- (1) 毎年8月にカリキュラム構築の調整を行う(職員研修所・人事課)ため、新任職員研修など職階別研修として実施する場合は最短で令和7年度開始となる。
- (2) 次のような方法でリモートラーニングによる研修実施も可能。この場合、所管は人口減少危機対策本部事務局か。
 - ・WEBトレーニング講座(委託先:㈱インソース)にライフデザインに係る講座を組み入れてもらう
 - ・オンデマンドで受講できるコンテンツを、ニッセイ基礎研究所などに作成してもらう

提案B

「ふらっとよれるプラットフォーム」設置要領

1. ねらい

我が国では人口減少・少子高齢化が加速的に進行しており、本県においても、合計特殊出生率の希望出生率との乖離と2年連続の下降により、まさに危機的な状況となっています。

山梨県庁においても、未婚の職員のうち恋人がいると回答した割合は30%にとどまるとともに、34歳までの職員の7割が結婚願望を持っている一方で、年齢が上昇するにつれて結婚を希望する職員数が減少していくことがわかりました。

結婚していない理由としては、男女とも「適当な相手に巡り会わない」が最も多く、「巡り会い」の機会の創出が求められます。

本事業では、巡り会いの場としてのコミュニティを形成するため、就業時間終了後に定期的に立ち寄ることができる場(プラットフォーム)を提供するとともに、コミュニティ活性化の契機となるよう、様々な分野のイベントを開催し、興味関心を同じくする職員どうしの協働を促します。

2. 時間、会場及び対象者

時間	毎月第1・第3●曜日 18時開始
会場	山梨県庁地下食堂 山梨県庁防災新館●●会議室 など
対象者	未婚職員

3. 内容(イメージ)

「○○好き」さん集まれ!	
プラットフォームに立ち寄るきっかけづくりのため、不定期にイベントを開催します。テーマは参加者から募集。必要に応じて事務局がコーディネーターを招聘します。参加者による自主企画も可。以下はテーマの例です。	
テーマ例	コーディネーター
ジブリパークは遠いから、ハイジの村でマッチング	—
サッカー観戦(南南東小学校 vs 東南東小学校)	—
街ブラ旅～丸の内一丁目6番編	—
英語ネイティブからアラビア語で中国漢字を習おう	英会話講師 Eigo Sukizou
ゆるキャン△聖地巡礼	—
アクセサリー作り体験	工芸作家 手造スキゾウ
料理教室:冷蔵庫の残り物で、いざ!カオマンガイ	—
若手だらけのスポーツ大会 in 岩手	—
謎解き脱出ゲームでチームビルディング	(株)ナゾスキゾー
出勤! イベント運営ボランティア	—

4. その他

- (1) 地下食堂の利用には食堂との協議が必要。ナチュラルグレースの活用に配慮も。
- (2) 会議室の利用には所定の様式による申込が必要。
- (3) ハブとなる実施主体は人口減少危機対策本部事務局などを想定。イベントのコーディネーター招へいに要する経費が必要。

提案C

「若手職員座談会」実施要領

1. ねらい

我が国では人口減少・少子高齢化が加速的に進行しており、本県においても、合計特殊出生率の希望出生率との乖離と2年連続の下降により、まさに危機的な状況となっています。

山梨県庁においても、未婚の職員のうち恋人がいないと回答した割合は70%にのぼり、恋人ができない理由としては、男女とも「そもそも出会いの場所がない」が最も多い状況です。また、30歳までの職員の約8割以上が結婚願望を持っている一方で、年齢が上昇するにつれて結婚を希望する職員数が減少していくことがわかりました。

このことから、「20代の若手職員の巡り会い」の機会の創出が求められます。

本事業では、若手職員の巡り会いの場を提供するため、若手職員の座談会を開催し、普段かかわりのない者どうしのコミュニティ活性化の契機となるよう交流を促します。

2. 時間、会場及び対象者

会場	山梨県庁防災新館●●会議室 など	
対象者	20代までの職員	
日時	令和6年●月●日〇〇時から〇〇時まで	採用7年目と採用8年目職員
	令和6年●月●日〇〇時から〇〇時まで	採用6年目と採用7年目職員
	令和6年●月●日〇〇時から〇〇時まで	採用5年目と採用6年目職員
	令和6年●月●日〇〇時から〇〇時まで	採用4年目と採用5年目職員
	令和6年●月●日〇〇時から〇〇時まで	採用3年目と採用4年目職員
	令和6年●月●日〇〇時から〇〇時まで	採用2年目と採用3年目職員
	令和6年●月●日〇〇時から〇〇時まで	採用1年目と採用2年目職員
	令和6年●月●日〇〇時から〇〇時まで	採用1年目と採用3年目職員

3. 内容

- ・事務局が、性別や入庁年度、所属部署をもとに対象職員を5～6名にグループ分けを行い、事前に参加者に通知する。
- ・座談会のテーマは、仕事の悩み相談、異動先の相談、私生活の過ごし方など、日々の悩みを後輩職員が先輩職員に相談するものとする。ただし、内容は仕事以外の悩みでも可とする。
- ・座談会終了後は、Teams のチャット機能や LINE 等を使い、気軽に悩みを相談できる場を継続して設けるよう促す。

4. その他

- (1) 入庁年度で分けると、中途採用者のように参加者の年齢が本事業の趣旨に合わない場合があるため、30歳以上の職員は希望制にするなど配慮が必要。
- (2) 「出会い色」を薄め、悩み相談ができる場としているため、若手職員の離職防止にも効果を発揮することが期待される。
- (3) 取りまとめは人口減少危機対策本部事務局が行い、運営は同事務局か当番期による持ち回り制が想定される。